

鍼灸の対象とする症状と適応とされる疾患

保険適用されている疾患	
神経痛	健康保険扱いで鍼灸の施術を受けることができます。
リウマチ	ただしいくつかの条件が必要です。
頸腕症候群	①医師の同意書が必要です。
五十肩	②医療機関で投薬や湿布を受けている場合は適用されません。
腰痛症	③取り扱いをしているか鍼灸院に確認してください。
頸椎捻挫後遺症等	

鍼灸の対象とする症状と適応とされる疾患

以下は「東洋医学臨床論<はりきゅう編>教科書執筆小委員会著 公益社団法人東洋療法学校協会編 株式会社医道の日本社 発行 2020年3月15日 第1版」を参考に筆者の 肩偶のぐはは「骨禺」、壇中のだんは「月」辺が正しい

鍼灸に効果が期待される症状		対象となる主な疾患	鍼灸を勉強なさる方向けの知見です	
			西洋医学からみた取穴	東洋医学的解説
頭痛	脳血管疾患によるものや腫瘍のものは直ぐに病院に行ってください。鍼灸が取り扱えるのは、筋収縮性頭痛や片頭痛（片頭痛型血管性頭痛）といわれるものです。	筋収縮性頭痛、 片頭痛（片頭痛型血管性頭痛）	筋収縮性頭痛：天柱、風池、肩井、懸顛 片頭痛（片頭痛型血管性頭痛）：天柱、完骨、和膠、陽白	外感性の頭痛：風寒、風熱、風湿 内傷性の頭痛：肝陽の亢進、痰濁、瘀血、腎虚、気血両虚
顔面痛	脳神経障害を伴うもの（頭蓋内の腫瘍）は医師の診察を受けてください。鍼灸では、症候性三叉神経痛や、非定形顔面痛を対象とします。	特発性三叉神経痛、非定形顔面痛	特発性三叉神経痛：第1枝（眼窩上孔部、前頭切痕部）、第2枝（眼窩下孔部（四白））、第3枝（オトガイ孔部） 非定形顔面痛：四白、横竹、人迎、水突	風寒、肝火、胃火、陰虚に分類される 四白、下関、陽白、合谷、太衝+陰虚（照海、三陰交、風池）OR 肝胃の火（内庭、陽陵泉、レイコウ、大陵）
顔面麻痺	中枢性、腫瘍性、損傷性、神経変性など様々な原因で顔面麻痺がおこります。鍼灸の対応となるのは、ベル麻痺と、一部のハンター-症候群です。	ベル麻痺	ベル麻痺：陽白、四白、地倉、翳風、天柱	顔面麻痺には、①少陽経、②陽明経、③肝血虚のタイプがある 取穴：地倉、頰車、陽白、四白、横竹など
歯痛	虫歯や歯肉炎、歯周病の治療は歯医者さんで行ってください。鍼灸では、三叉神経痛の一部として生じる歯痛に対応します。過労や加齢で体力が弱ったときに、歯の浮いたような感じがすることがあります。そのような症状には効果があります。	歯科領域が原因で生じる三叉神経分布領域の疼痛	大迎、下関、オトガイ孔	実火、風火、腎虚によるものが多い 実火による歯痛：下関、頰車、合谷、内庭、上巨虚 腎陰虚による歯痛：下関、頰車、合谷、太谿、行間
眼精疲労	PCやスマホの普及により目の疲れを訴える方が増えています。まずは緑内障や慢性結膜炎などの眼科的疾患がないことを眼科で診察を受けましょう。鍼灸では、全身疲労性眼精疲労、筋性眼精疲労、調節性眼精疲労の症状の改善が期待されます。	全身疲労性眼精疲労、筋性眼精疲労、調節性眼精疲労	全身疲労性眼精疲労、筋性眼精疲労、調節性眼精疲労 *顔面部：横竹、太陽 *後頭部：風池	肝血虚、肝腎陰虚による 取穴：太谿、太衝、三陰交、横竹、風池
鼻閉、鼻汁	鼻炎、慢性副鼻腔炎による鼻閉、鼻漏は程度により症状の改善が期待できますが、鍼灸の対応となるのは鼻過敏症です。自律神経機能を調整し、恒常性保持機能を向上させて鼻症状の改善を図ります。	アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎	アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎 *鼻部：迎香、横竹 *後頭部：風池	鼻淵（鼻閉、生臭い鼻汁、嗅覚減退のこと） ①肝胆の鬱熱：太衝、風池、陽陵泉、上星、迎香 ②脾系の湿熱 ③肺気虚：上星、迎香、肺俞、太淵、太谿 ④脾気虚
脱毛症	自律神経失調や精神的ストレスが原因といわれている円形脱毛症に効果が期待できます。	円形脱毛症	円形脱毛症：天柱、風池、肩井	原因分類：血熱、瘀血、気血両虚、肝腎陰虚 ①瘀血による脱毛：膈俞、三陰交、血海、風池、上廉 ②肝腎陰虚による脱毛：太谿、腎俞、血海、上廉、足三里
めまい	めまいを訴える方はたくさんおられるのですが、まず脳神経科や耳鼻科を受診して、頭蓋内や耳に原疾患がないか診察を受けてください。眩暈を訴える患者さんは、肩こり、高血圧、眼精疲労、更年期障害、自律神経失調症などがある場合が多く、鍼灸では内耳や脳内の血流改善の目的で施術を行います。	めまい感	めまい感；肩こり、頭痛、高血圧、眼精疲労、更年期障害、自律神経失調症などに併発することが多い *耳周囲：和膠、完骨、頭竅陰、 *後頭部：風池 *肩背部：肩井	原因による分類：肝陽の亢進、痰濁、気血両虚、腎精不足 ①肝陽の亢進：風池、俠谿、陽輔、太衝、太谿 ②気血両虚：百会、脾俞、膈俞、足三里、三陰交

鍼灸の対象とする症状と適応とされる疾患

以下は「東洋医学臨床論<はりきゅう編>教科書執筆小委員会著 公益社団法人東洋療法学校協会編 株式会社医道の日本社 発行 2020年3月15日 第1版」を参考に筆者の 肩隅のぐうは「骨禺」、壇中のだんは「月」辺が正しい

鍼灸に効果が期待される症状		対象となる主な疾患	鍼灸を勉強なさる方向けの知見です	
			西洋医学からみた取穴	東洋医学的解説
耳鳴り、難聴	耳鳴りの原因は耳疾患によるもののほかに脳血管障害、高・低血圧、貧血、糖尿病、甲状腺腫などの全身疾患や自律神経系や精神的な要因が考えられます。鍼灸の主な対象は無難聴性耳鳴り（難聴がない耳鳴り）です。患者さんは肩こりや、疲労、睡眠不足などを伴うことが多く、それらに対して自律神経を調整し、内耳への血流の改善を図ります。	無難聴性耳鳴り	無難聴性耳鳴りの取穴 * 耳周部； 耳門、聴会、翳風 など * 後頭部： 完骨、風池 など	原因による分類：肝火、痰火、脾胃虚弱、腎精不足 ①肝火： 翳風、聴会、俠谿、中渚、太衝 ②腎精不足： 翳風、聴会、腎俞、関元、太衝
咳嗽	咳嗽（せき）は「気道内分泌物や気道に侵入した異物の排除を目的とした生理的防御反応」です。原因は呼吸器感染症、肺がん、気管支拡張症、結核、気管支拡張症、気胸、胸膜炎、肺気腫、心臓疾患など様々なものがあります。鍼灸の対応はこれの中で呼吸器感染症による風邪症候群となります。鍼灸では東洋医学的証立て（肺腎陰虚や肝火上炎というもの）を行い、患者さんの体質に従った施術を行います。	かぜ症候群による咳嗽	かぜ症候群による咳嗽；気道の炎症が軽いものや、治りきらずに慢性化したものを対象とする。気道の過敏性の軽減、気道炎症の軽減を目的とする。 * 取穴： 天突、大杼、尺沢	外感性の咳嗽：風寒、風熱 内相性の咳嗽：痰湿、肝火、肺腎陰虚 ①肝火： 肺俞、魚際、尺沢、行間、陽陵泉 ②肺腎陰虚： 肺俞、腎俞、膏肓俞、尺沢、照海
喘息	喘息には大きくは心臓喘息と気管支喘息がありますが、鍼灸の対象となるのは気管支喘息です。鍼灸では、自律神経を整えるとともに東洋医学的にみて腎気虚や痰湿の有無などの体質を判断して施術を行います。	気管支喘息	気管支喘息；自律神経の調整、気道の過敏性の抑制 * 天突、中府、身柱、肺俞、膈俞	実証のコウ喘；風寒、痰熱 虚証のコウ喘；肺気虚、脾気虚、腎気虚 ①痰熱： 合谷、豊隆、ダン中、中府、孔最 ②腎気虚； 肺俞、太淵、腎俞、太谿、足三里
胸痛	胸部の痛みの中で、狭心症や心筋梗塞、悪性腫瘍などを除いたもので、突発性肋間神経痛、帯状疱疹の痛み、胸部手術後の疼痛などに対応します。	突発性肋間神経痛、帯状疱疹	突発性肋間神経痛；原因が明らかでなく肋間神経領域に痛みが出現するもの * 前皮枝：当該肋間部で胸骨の傍ら（ 胸骨点 ） * 外側皮枝：前腋窩線上の当該肋間部（ 腋高点 ） * 後枝：棘突起の外方約3cmの部位（ 脊柱点 ）	胸痺（胸痛）の原因分類：痰濁（心血悪阻）、瘀血、陽虚（心陽虚） ①瘀血の時： 心俞、膈俞、壇中、巨闕、陰郄 ②陽虚の時： 心俞、厥陰俞、壇中、内関、通里
腹痛	お腹の痛みの原因は様々です。消化器系（食道、胃、小腸、大腸）や泌尿器系（腎臓や膀胱）、生殖器（子宮や卵巣）、血管系、神経系、時には代謝系などの病気によって起こります。病態としても潰瘍によるもの、結石によるもの、腫瘍によるもの等があります。非常に急激で激しい痛みがあるとき（結石）や吐血をともなうもの（潰瘍、腫瘍）、発熱・下痢・嘔吐・脱水をともなうもの（食中毒）などは至急病院を受診してください。それら以外の場合でも、腹痛の痛みを改善することは可能ですが、例えば胆石症の胆石が鍼灸でなくなることはないので、医師の診断は受けてください。鍼灸の対応可能な疾患は、慢性胃炎、胃下垂症、胃神経症、胆石症、慢性腸炎、過敏性大腸症候群、神経性腸疾患などです。この中で、過敏性大腸症候群に対する施術例は近年増えてきています。	①持続性の心窩部鈍痛、膨満感、重圧感、食欲不振など ②精神的ストレス、精神的・肉体的疲労が誘因となっている腹痛や消化器症状 慢性胃炎、胃下垂症、胃神経症、胆石症、慢性腸炎、過敏性大腸症候群、神経性腸疾患	①持続性の心窩部鈍痛、膨満感、重圧感、食欲不振など ②精神的ストレス、精神的・肉体的疲労が誘因となっている腹痛や消化器症状 * 腹部： 中脘、天枢 * 背部： 膈俞、肝俞、脾俞（胃の六つ灸）	I <上腹部痛> 胃脘痛の原因分類：寒邪、食滞、肝鬱、脾胃虚寒 ①寒邪による胃脘痛： 中脘、足三里、内関、梁丘、合谷 ②脾胃虚寒による胃脘痛： 胃俞、中脘、足三里、内関、公孫 II <下腹部痛> 原因分類：寒邪、食滞、肝鬱、脾陽虚 ①肝鬱による腹痛： 章門、太衝、内関、気海、陽陵泉 ②脾陽虚による腹痛： 脾俞、胃俞、章門、中脘、足三里

鍼灸の対象とする症状と適応とされる疾患

以下は「東洋医学臨床論<はりきゅう編>教科書執筆小委員会著 公益社団法人東洋療法学校協会編 株式会社医道の日本社 発行 2020年3月15日 第1版」を参考に筆者の 肩偶のぐうは「骨禺」、壇中のだんは「月」辺が正しい

鍼灸に効果が期待される症状		対象となる主な疾患	鍼灸を勉強なさる方向けの知見です	
			西洋医学からみた取穴	東洋医学的解説
悪心 嘔吐	意識障害、頭痛、眼痛、眩暈、胸痛、発熱などが伴うときは医療機関の受診を勧めます。妊娠中毒やつわりの場合の鍼灸は流産などのリスクを伴うので注意が必要です。鍼灸では、飲みすぎや食べすぎによる急性胃炎、慢性胃炎、胃神経症に随伴する悪心・嘔吐や精神的ストレスによる悪心嘔吐に対応します。	急性胃炎、慢性胃炎、胃神経症 精神的ストレス	急性胃炎、慢性胃炎に対する取穴 * 腹部：巨闕、中脘 * 背部：膈俞、肝俞、脾俞	悪心の原因：外邪、食滯、肝鬱、痰飲、脾胃虚弱、胃陰虚 ①食滯による悪心・嘔吐：下脘、内関、足三里、天枢、内庭 ②脾胃虚弱による悪心・嘔吐：中脘、内関、足三里、脾俞、章門
便秘 下痢	腸間内に腫瘍がある場合や腸閉塞、腸重積、食中毒や感染性腸疾患（細菌性赤痢など）を除きます。機能的なものを原因とするものや情緒的ストレスが原因となる便秘や下痢が対象となります。神経性腸疾患、内臓弛緩下垂症、習慣性便秘、単純性下痢、心因性下痢、過敏性大腸症候群などが対象となります。	神経性腸疾患、内臓弛緩下垂症、習慣性便秘、単純性下痢、心因性下痢、過敏性大腸症候群	過敏性大腸症候群に対する取穴 * 腹部：左腹結、天枢 * 背部：三焦俞、大腸俞 * 膺の塩灸	I <便秘（秘結）>の原因：胃腸の熱（熱秘）、肝鬱（氣秘）、氣虚・血虚（虚秘）、腎陽虚（冷秘） ①熱秘： ②虚秘：脾俞、大腸俞、三陰交、天枢、上巨虚 II <下痢>の原因：外邪、傷食（食あたり）、肝鬱、脾胃虚弱、胃陽虚 ①湿熱による下痢：天枢、合谷、陰陵泉、上巨虚、下巨虚 ②腎陽虚による下痢（五更泄瀉）：中脘、天枢、脾俞、腎俞、命門
月経異常	月経異常には①無月経、②月経周期の異常、③月経の持続日数や量の異常、④初経に関する異常、⑤閉経に関する異常、⑥月経随伴症状の異常があります。月経に伴う下腹部の不快感や下腹部痛、腰痛がひどい場合を月経困難症といいます。器質的疾患を認めない原発性月経困難症を対象とします。	原発性月経困難症、稀発月経、続発性無月経	原発性月経困難症（月経前緊張症、月経困難症）自律神経系、内分泌系の調整 * 腹部：関元 * 腰部：腎俞、次髎 * 下肢：三陰交	I <経早（+月経過多）>の原因：実熱、うつ熱、虚熱、氣虚 ①うつ熱による経早：関元、行間、血海、地機 ②氣虚による経早：関元、氣海、血海、足三里、脾俞 II <経遅（+過少月経）>の原因：寒邪、肝鬱、虚寒、血虚 ①寒邪による経遅：氣海、氣穴、三陰交、归来、天枢 ②血虚による経遅：氣海、氣穴、三陰交、脾俞、膈俞 III <経乱>の原因：肝鬱、腎虚 ①肝鬱による経乱：肝俞、期門、太衝、中極、三陰交 ②腎虚による経乱：関元、三陰交、腎俞、太谿、水泉
排尿障害	排尿の障害には、回数の異常、排尿困難、尿失禁などがあります。前立腺癌、急性前立腺炎、尿道炎、腎盂腎炎などは対象から除きます。鍼灸の対象となるのは、慢性前立腺炎、神経因性膀胱（過活動膀胱）です。	慢性前立腺炎、] 神経因性膀胱（過活動膀胱）	慢性前立腺炎、神経因性膀胱（過活動膀胱） * 下腹部：中極、横骨 * 腰仙部：腎俞、次髎 * 下肢：三陰交	癱閉（病位は膀胱にあり）の原因：肺熱、膀胱湿熱、脾氣虚、腎陽虚 ①膀胱湿熱による癱閉：陰陵泉、三陰交、膀胱俞、中極、次髎 ②腎陽虚による癱閉：陰谷、腎俞、三焦俞、氣海、委陽
インポテンツ	性機能に関する器質的病変がなく、精神疾患（統合失調症やうつ病など）がない場合で性交時に有効な勃起が起こらない場合を心因性インポテンツとして鍼灸の対象とします。	心因性インポテンツ	心因性インポテンツ * 仙骨部：次髎、中髎 * 腰部：腎俞 * 下腹部：中極	陽萎の原因：湿熱、七情内傷、命門火衰（腎陽虚）、心脾両虚 ①湿熱による陽萎：中極、腎俞、膀胱俞、三陰交、陰陵泉 ②命門火衰による陽萎：関元、命門、腎俞、太谿、三陰交

鍼灸の対象とする症状と適応とされる疾患

以下は「東洋医学臨床論<はりきゅう編>教科書執筆小委員会著 公益社団法人東洋療法学校協会編 株式会社医道の日本社 発行 2020年3月15日 第1版」を参考に筆者の 肩隅のぐはは「骨禺」、壇中のだんは「月」辺が正しい

鍼灸に効果が期待される症状		対象となる主な疾患	鍼灸を勉強なさる方向けの知見です	
			西洋医学からみた取穴	東洋医学的解説
肩こり	最も多い症候の一つです。日々の生活の中での疲労として感じられることが多いのですが、頸椎疾患、耳鼻科、眼科、歯科疾患、内科疾患から不定愁訴（更年期障害、自律神経失調症など）として訴えられることが多い症候です。	肩こり	過剰使用による筋疲労、精神的緊張、自律神経失調など * 天柱、風池、肩井、膏肓、身柱	原因：風寒の邪、肝陽の亢進（高血圧によくみられる）、肝血の不足、寒飲、気滞血瘀 ①気滞血瘀：至陽、肩井、膈俞、太衝、陽陵泉 ②肝血虚：至陽、天柱、肩井、三陰交、血海
頸肩腕痛	日常的な仕事上のストレス（キーパンチャーのような作業による上肢の酷使に起因する肩甲部や上肢筋の過労）による局所の疲労、頸椎の加齢編成によっておこるものが多いが、頸椎周辺の炎症性病変や悪性腫瘍との鑑別も必要です。	頸椎症 頸肩腕痛	頸椎症；頸椎周辺の退行性変性による。神経根周囲の循環改善、炎症除去、神経走行に沿った反応点、疼痛部位の鎮痛 * 風池、大椎、天鼎、肩貞、曲池など	痺証（頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛、腰下肢痛、膝痛など）のうち A)風寒湿による痺証 ①行痺（風痺）⇒風邪偏盛：風池、膈俞、血海、太衝 ②痛痺（寒痺）⇒寒邪偏盛：腎俞、関元 ③着痺（湿痺）⇒湿邪偏盛：陰陵泉、足三里 B)風湿熱による痺証 ④熱痺：大椎、曲池、合谷 頸肩腕痛の病証 ①痺証型：上記参照 ②肝肾不足型：痺証が長期化したとき。 天柱、風池、完骨、大椎、阿是穴 + * 手陽明経：曲池、手三里など * 手足太陽経：天宗、肩中俞、肩外俞、後谿 * 手足少陽経：天膠、天井、支溝、懸鐘、丘墟
肩関節痛	化膿性関節炎や骨折、脱臼、腱板断裂などを除外した腱板炎、肩峰下滑液包炎、上腕二頭筋長頭腱炎、五十肩を対象とします。	腱板炎、肩峰下滑液包炎、上腕二頭筋長頭腱炎、五十肩	* 腱板炎、肩峰下滑液包炎⇒スポーツ鍼灸 * 上腕二頭筋長頭腱炎⇒スポーツ鍼灸 * 五十肩：肩ぐう、肩髃、巨骨、肩貞、臂臑	風寒湿の外邪が虚に乗じて肩部に侵入する。経絡の気血の流れが悪くなり気滞血瘀が起こる ①経絡型：肩ぐう、肩貞、肩髃、曲池、外関 ②経筋型：肩ぐう、肩貞、肩髃、条口、陽陵泉
上肢痛	狭心症の関連痛として現れる場合があります。前胸部痛や胸内苦悶がある場合は医療機関の受診を勧めます。鍼灸では、上肢帯の筋からの関連痛やきょうかくでぐ肩周辺の絞扼性神経障害や腱炎、腱鞘炎に対応します。	胸郭出口症候群、テニス肘、ゴルフ肘	* 胸郭出口症候群、 ①神経血管束が圧迫されていると思われる部位の筋緊張の緩和：天鼎、屋翳、中府 ②頸肩部筋スパズムの除去：天柱、肩井 * テニス肘、ゴルフ肘、腱炎、腱鞘炎⇒スポーツ鍼灸	no data

鍼灸の対象とする症状と適応とされる疾患

以下は「東洋医学臨床論<はりきゅう編>教科書執筆小委員会著 公益社団法人東洋療法学校協会編 株式会社医道の日本社 発行 2020年3月15日 第1版」を参考に筆者の 肩隅のぐうは「骨禺」、壇中のだんは「月」辺が正しい

鍼灸に効果が期待される症状		対象となる主な疾患	鍼灸を勉強なさる方向けの知見です	
			西洋医学からみた取穴	東洋医学的解説
腰下肢痛	悪性腫瘍や椎間板ヘルニア、脊椎分離症、脊椎すべり症などの脊椎の疾患、圧迫骨折などでも腰痛が生じます。これらの疾患は医療機関をまず受診していただくことが大切です。しかし多くの腰痛は姿勢が悪かったり、労働に起因する筋筋膜の緊張によるものが多いです。腰痛の原因は様々ですが、腰痛の痛みをとるといって鍼灸は有効です。	筋筋膜性腰痛、椎間関節性腰痛、変形性脊椎症、根性坐骨神経痛、梨状筋症候群、	A)腰痛 ①筋筋膜性腰痛、②椎間関節性腰痛、③変形性脊椎症、 取穴例：脾俞、胃俞、腎俞、志室、大腸俞 B)坐骨神経痛 ①根性坐骨神経痛：脾俞、胃俞、腎俞、志室、大腸俞、胞 胃、殷門、承筋、陽陵泉、足三里 ②梨状筋症候群：梨状筋部圧痛点	①急性<気血阻滞による腰痛>：腎俞、委中、環跳、大腸俞、阿是穴 ②慢性<寒湿による腰痛> 太陽型：腎俞、大腸俞、環跳、委中、崑崙 少陽型：大腸俞、環跳、風市、陽陵泉、飛陽 ③慢性<腎虚による腰痛>：大腸俞、環跳、委中、腎俞、太谿
膝痛	悪性腫瘍や化膿性の膝関節炎、半月板損傷や離断性骨軟骨炎、受傷直後の関節内骨折や靭帯損傷、半月板損傷、靭帯の断裂などとの鑑別診断に注意し、これらの疾病に関しては医療機関の受診が必須です。鍼灸の対象となる最も多いのは、老化変性による変形性膝関節症です。また運動性の膝関節痛や滑液包炎の痛みの軽減や改善が期待できます。	変形性膝関節症、運動性膝関節痛、滑液包炎	A)変形性膝関節症：血海、梁丘、犢鼻、その他関節周囲の圧痛点 B)運動性膝関節痛⇒スポーツ鍼灸 C)滑液包炎：直接刺鍼による炎症の消褪を図る、筋、靭帯の緊張緩和	膝痛の原因：労損、痺証、挫傷 *局所治療：膝周囲の経穴 *足三里、犢鼻、梁丘、陽陵泉、足陽関、陰陵泉、膝関、曲泉、陰谷、浮郤、委陽、委中
運動麻痺	運動麻痺には、神経-筋接合部の障害、筋自体の障害というものの他に主には中枢神経麻痺と抹消神経麻痺があります。いずれにしても原因となる疾患の診断や治療に関しては医療機関の受診が重要です。診断名が明らかになったら、その症状の回復や改善のために鍼灸は有効とされています。適応となるのは、脳血管障害の後遺症、抹消神経麻痺です。抹消神経麻痺には、その神経によって橈骨神経麻痺、正中神経麻痺、尺骨神経麻痺、総腓骨神経麻痺、脛骨神経麻痺があります。	脳血管障害の後遺症 末梢神経麻痺（橈骨神経麻痺、正中神経麻痺、尺骨神経麻痺、総腓骨神経麻痺、脛骨神経麻痺）	A)脳血管障害の後遺症：天柱、曲池、合谷、伏兔、足三里 B)末梢神経麻痺 ①橈骨神経麻痺：曲池、手三里、合谷 ②正中神経麻痺：郄門、内関 ③尺骨神経麻痺：小海、支正、神門 ④総腓骨神経麻痺：陽陵泉、懸鐘 ⑤脛骨神経麻痺：承筋、承山	運動麻痺（四肢不用、四肢不舉、萎躄（イヘキ））の原因：肺熱、湿熱、脾胃虚弱、肝腎陰虚 処方例：すべてにおいて（肩ぐう、曲池、手三里、外関、合谷、環跳、伏兔、梁丘、足三里、解谿） ①湿熱による運動麻痺：上記+陰陵泉、内庭 ②脾胃虚弱：+脾俞、胃俞、太白 ③肝腎陰虚による運動麻痺：+肝俞、腎俞、懸鐘、陽陵泉
高血圧症	高血圧の状態が続くと脳卒中のリスクが高くなるため、血圧が高いといわれたらまずは循環器の専門医を受診することが必要です。医師の診断後、要観察程度であるとか、すでに投薬治療によって血圧が安定しているのであれば、鍼灸を体重のコントロールや生活習慣の見直し（運動、喫煙、食事、睡眠など）と併用して体調のコントロールの一つ手段としてください。	本態性高血圧症の方の体調の改善	本態性高血圧症の方の体調の改善、肩こり、耳鳴り、不眠、動悸、息切れ、夜間尿など症状は多彩。血圧の安定とともに、全身の調整を図る。 取穴：天柱、人迎、心俞、腎俞、郄門	肝腎の陰陽のバランスの失調ととらえる 原因：肝火、痰濁、陰虚陽亢 ①陰虚陽亢による高血圧：風池、曲池、内関、三陰交、太谿 ②痰濁による高血圧：風池、豊隆、足三里、太衝
低血圧症	発熱や貧血などの重篤な基礎疾患を疑う症状がない場合、ほとんどの低血圧は本態性低血圧症といわれるものです。体質的なものなので、特に病的な意義は少ないと考えられていますが、低血圧を持つ方には多彩な不定愁訴を持つ方が多いため、それぞれの愁訴に合わせた取穴とともに東洋医学的には気虚や気陰両虚に対する取穴を行います。	本態性低血圧	本態性低血圧の原因は不明である。体質的なもので病的な意義は少ないが、倦怠感、肩こり、頭重感、耳鳴り、立ち眩み、胃部不快感、食欲不振、便秘など多彩な症状を訴えることが多い。 取穴：額会、完骨、中脘、身柱、脾俞	本証は気虚体質や飲食不節や労倦と関係があり、「眩暈」「虚勞」「暈厥（ウンケツ）」がある。原因は気虚と気陰両虚で虚証のみ。 ①気虚による低血圧：百会、脾俞、腎俞、関元、足三里 ②気陰両虚による低血圧：脾俞、腎俞、足三里、太谿、三陰交

鍼灸の対象とする症状と適応とされる疾患

以下は「東洋医学臨床論＜はりきゅう編＞教科書執筆小委員会著 公益社団法人東洋療法学校協会編 株式会社医道の日本社 発行 2020年3月15日 第1版」を参考に筆者の 肩偶のぐは「骨禺」、壇中のだんは「月」辺が正しい

鍼灸に効果が期待される症状		対象となる主な疾患	鍼灸を勉強なさる方向けの知見です	
			西洋医学からみた取穴	東洋医学的解説
食欲不振	食欲不振の原因は、消化器疾患の他に感染症、内分泌疾患、腎疾患、心疾患、脳腫瘍、精神疾患、薬物など様々なものがあります。原疾患の治療は医療機関に任せます。癌などの重篤な場合を除いて、対症的に効果を期待できます。	急性胃炎、慢性胃炎、胃神経症	*急性胃炎、慢性胃炎⇒悪心・嘔吐の欄参照 *胃神経症： 中腕、巨關、膈俞、脾俞、百会	「悪食」「厭食」という。原因は、肝胃不和、脾胃湿熱、食滯、胃陰虚、脾胃虚弱がある。 ①脾胃湿熱による食欲不振： 中腕、足三里、曲池、陰陵泉、三陰交 ②胃陰虚による食欲不振： 足三里、解谿、太谿、胃俞
肥満	単純性肥満の改善には摂取カロリーの制限と運動による消費カロリーの増加、筋肉量の増加による基礎代謝の増加が必要です。鍼灸は全身の代謝の促進をはかる目的に行います。	単純性肥満	肥満症には、摂取カロリーと消費カロリーの不均衡による単純性肥満だけでなく、内分泌障害や中枢神経障害によって生じるものがある。鍼灸の適応となるのは単純性肥満である。減食と運動が中心となるが、全身の代謝の促進のために鍼灸を用いる、 *取穴： 天枢、脾俞、腎俞、曲池、足三里	多くは虚実挟雑証である。原因は痰湿と気虚があるが、両者は相互に関係する場合が多い。 ①痰湿による肥満：脾の運化の失調。 ⇒ 曲池、支溝、三陰交、内庭、四溝、腹結 ②気虚による肥満：脾気虚がベースにある。 ⇒ 内関、列缺、豊隆、三陰交、水分、天枢、関元
発熱	発熱には様々な原因があり、その原因を明らかにして医療機関による治療を受ける必要があります。東洋医学では、発熱を外感性発熱と内傷性発熱に分類して、それぞれ邪気を取り除いたり、内因性の原因に対応した取穴を行います。	かぜ症候群 慢性扁桃炎：発熱や咽頭痛などがあ る急性期には適応しない	*かぜ症候群⇒咳嗽の欄を参照 *慢性扁桃炎：全身状態を整え、再感染を予防する。扁桃周辺の循環の改善。： 肩井、腎俞、中府、人迎、合谷	東洋医学的解説での発熱には外感性のものと内傷性のものがある A) 外感性発熱の原因：風寒、風温、湿熱、寒湿、暑湿 B) 内傷性発熱の原因：陰虚、気虚（脾気虚）、血虚、肝火、瘀血 ①瘀血による発熱： 心俞、膈俞、太淵、内関、太衝 ⇒手足厥陰経穴、背俞穴にて瀉法を行う ②陰虚による発熱： 神門、心俞、太谿、腎俞、三陰交 ⇒手の少陰経穴の瀉法、足の少陰経穴の補法
のぼせ 冷え	のぼせには原因があって生じる場合とそうでない場合があります。のぼせの原疾患としては、多血症、カルチノイド諸候群、上大静脈症候群があり、冷えには貧血症、大動脈炎症候群、レイノー病、パージャー病などがあります。原因のはっきりしないものは鍼灸の対象となり、更年期障害や心因性のものがあります。	更年期障害 軽症のレイノー病、パージャー病	更年期障害による内分泌系、自律神経系を調整する。血流の調節（①のぼせ：血流の誘導、②冷え：血流確保） ①のぼせ：身柱、次膠、三陰交 ②冷え：足三里、太衝	I のぼせ ①心腎不交によるのぼせ、冷え：心腎の交通を図り、陰陽のバランスを回復させる。心・腎の原穴、督脈経、足の少陰経穴 取穴：内関、神門、三陰交、太谿、大椎、腎俞、長強、百会、関元 II 冷え性 ①陽虚、寒湿、瘀血による冷え性：陽気の回復、寒湿の除去、瘀血の改善のため、腰背部、腹部穴 取穴：至陽、膈俞、腎俞、上膠、次膠、中膠、下膠、壇

鍼灸の対象とする症状と適応とされる疾患

以下は「東洋医学臨床論<はりきゅう編>教科書執筆小委員会著 公益社団法人東洋療法学校協会編 株式会社医道の日本社 発行 2020年3月15日 第1版」を参考に筆者の 肩偶のぐは「骨禺」、壇中のだんは「月」辺が正しい

鍼灸に効果が期待される症状		対象となる主な疾患	西洋医学からみた取穴	東洋医学的解説
不眠	不眠には入眠障害、早期覚醒、熟眠障害、まったく眠れないなどがあります。精神疾患を伴う場合もありますが、ほとんどは生活の乱れや心理的ストレス、自律神経の乱れ、加齢などによるものです。時に加齢による不眠を訴える方は多く、鍼灸の対象となります。	機械性不眠 神経症性不眠	機械性不眠、神経症性不眠： 百会、額会、天柱、風池、完骨、肩井	不眠の原因：痰熱、肝火、心脾両虚、心腎不交 ①痰熱による不眠：胃不和の状態。痰熱が中焦にある。 ⇒胃の募穴、足の陽明、足太陰経穴 ⇒ 中脘、豊隆、内関、厲兌、隠白 ②心腎不交による不眠：腎精の不足、心火の亢進 ⇒手足の少陰経、手足の厥陰経 ⇒ 太陵、太谿、神門、太衝、三陰交
疲労 倦怠	原疾患があつておこる病的な場合と、長時間の労働や運動、緊張によって生じる生理的な反応としてのものがあります。	生理的疲労・倦怠	生理的疲労・倦怠：肩こり、腰痛などの愁訴を伴うのでそれに対応し、以下加える 取穴： 肩井、腎兪、中脘、手三里、足三里	気虚、脾虚、腎虚、湿、五労⇒産後・病後の気血不足、五労七情による精気の損傷、房事過多による元気の損傷、飲食不節による脾胃虚弱・痰湿、心労による神気の損傷、先天不足、腎気虚 ①痰湿による倦怠：脾気虚、脾陽虚と痰湿の虚実挟雑 ⇒ 関元、中脘、陰陽虚、足三里、豊隆 ②脾気虚による倦怠：任脈、足太陰経穴 ⇒ 関元、気海、中脘、三陰交、足三里
発疹	蕁麻疹や帯状疱疹に対応します。東洋医学的には、衛気の巡りを良くして、体調を整えます。	蕁麻疹、帯状疱疹	蕁麻疹の発症時は神経興奮の鎮静、間欠時には体質改善を目指す 取穴：天柱、肩偶、曲池、足三里、膨疹部への直接刺激	発疹は、風、寒、湿、熱の邪が皮毛（肺）に侵入することによると考える。⇒風熱、風寒、胃の湿熱、気血両虚 ①胃の湿熱による発疹：手足の陽明・太陰経穴 ⇒曲池、足三里、陰陵泉、血海、列缺 ②気血両虚による発疹：脾気を補い、気血を生成し、衛気の回復のために脾・胃の背部兪穴、足太陰、手陽明経穴に補法 ⇒ 膈兪、脾兪、気海、血海、足三里
頻尿	泌尿器系や内分泌系に原疾患がある場合を除くと、高齢者や女性に多くみ	過活動膀胱	under building	under building
小児の症状	鍼灸では古来より「小児鍼」という分野があります。夜泣き、疳の虫が有名ですが、睡眠障害、夜驚、チック、消化不良、下痢、便秘、食欲不振、嘔吐、夜尿、頻尿、遺尿などの小児神経症、小児喘息、扁桃炎などが対象となります。	小児神経症、小児夜尿症、小児喘息、扁桃炎、	小児神経症： 天柱、風池 小児夜尿症： 腎兪、次髎 小児喘息： 天突、兪府、靈台 扁桃炎： 人迎、身柱 共通治療としての、小児鍼による 全身皮膚の接触刺激	遺尿の原因：腎気虚、脾肺気虚 ①腎気虚による夜尿症：腎気を補い、固摂機能を向上させるため、任脈穴、腎・膀胱の背部兪穴に補法 ⇒ 関元、中極、腎兪、膀胱兪、太谿 ②脾肺気虚による夜尿症：脾肺を補い、下焦の調整をはかる。任脈穴、手足太陰、足陽明経穴に補法 ⇒ 気海、太谿、肺兪、三陰交、足三里

鍼灸の対象とする症状と適応とされる疾患

以下は「東洋医学臨床論<はりきゅう編>教科書執筆小委員会著 公益社団法人東洋療法学校協会編 株式会社医道の日本社 発行 2020年3月15日 第1版」を参考に筆者の 肩偶のぐうは「骨禺」、壇中のだんは「月」辺が正しい

鍼灸に効果が期待される症状		対象となる主な疾患	鍼灸を勉強なさる方向けの知見です	
			西洋医学からみた取穴	東洋医学的解説
スポーツ障害	スポーツにおける傷害の予防や外傷後の治療として積極的に適応されています。 運動性肩関節痛（野球肩など） 運動性肘関節痛（テニス肘、ゴルフ肘） 運動性腰痛（腰部捻挫、脊椎分離症とすべり症、椎間板ヘルニア、その他） 運動性膝関節痛（ジャンパー膝（膝蓋靭帯炎）） 運動性下肢痛（コンパートメント症候群、アキレス腱炎）	運動性肩関節痛 運動性肘関節痛 運動性腰痛 運動性膝関節痛 運動性下肢痛	①運動性肩関節痛（野球肩）：三角筋（臑会、臑兪、肩貞）、上腕二頭筋（結節間溝、天府、侠伯）、棘上筋（曲垣、乘風）、僧帽筋（肩井、肩外兪）、広背筋（腎兪、志室）、その他（肩関節周囲の運動痛・圧迫部位、硬結部位） ②運動性肘関節痛（テニス肘）：上腕骨外側上顆（曲池、肘髁）、肘頭（天井）、前腕伸筋群（手三里、陽池）、肘窩（尺沢、曲沢）、上腕骨内側上顆（小海、少海）、前腕屈筋群（支正、大陵）その他（肘関節周囲の運動痛・圧迫部位、硬結部位） ③運動性腰痛 ④運動性膝関節痛（ジャンパー膝）：膝蓋靭帯（犢鼻、内・外膝眼）、大腿四頭筋（血海、梁丘）、脛骨外側（足三里、陽陵泉）、脛骨内側（陰陵泉（驚足部））、その他（膝蓋骨周囲、大腿四頭筋の有痛部位） ⑤運動性下肢痛（アキレス腱炎）：腓腹筋（承筋、承山）、ヒラメ筋（飛陽、築賓）、アキレス腱（崑崙、太谿）、その他（限局された痛みが出やすいため、経穴にとられない取穴と行う）	
高齢者と鍼治療	高齢者は生体機能が全体的に低下しており、東洋医学で言う腎虚の状態がベースにあると考えます。全身の体調を調整し、自律神経を整え、生活のQOLを上げるために、それぞれの症状に応じた取穴を行います。			